

せめて25歳で
知りたかった
投資の授業

三田紀房

ファイナンシャルアカデミー

大人気投資マンガ
『インベスターZ』

お金の教養が身につく
総合マネースクール
「ファイナンシャルアカデミー」

最強タッグに学ぶ、
投資の基礎と投資家の思考。

学ばなれば、
早いほう、
がいい！



せめて25歳で知りたかった投資の授業

三田紀房×ファイナンシャルアカデミー

星海社

103



SEIKAISHA
SHINSHO

はじめに

あなたは、働いて稼いだお金をどこに置いていらっしゃいますか？ ほとんどの方が銀行に預けているのではないのでしょうか。

「ゼロ金利」^{（きんり）}。ニュースでこの単語を聞いたことのある方は多いでしょう。長らく日本はゼロ金利の時代にいます。ゼロ金利とは（預金者が）銀行にお金を預けてもらえる「利息（＝金利）」が「ゼロ」（に近い）ということです。現代の日本では、お金を銀行に置いていますが、タンスにしまっただけのように、^{（かみだな）}神棚に供えていようが、増えることはありません。

でも、おかしいとは思いませんか？ 銀行は、「預かる」という言葉を使ってこそいますが、わたしたちからお金を借りている立場にあります。わたしたちがお金を借りたら、「ローン」という名目で金融機関から利息をとられるのに、銀行はわたしたちに対して利息を

払ってくれないのです。それでも、誰もがお金を銀行に預け続けています。

どうして銀行にお金を預けるのが常識となっているのか。それは、この日本に、銀行に預けてさえいればお金の増えるという時代があったからです。

わたしが大学生になった1992年のことです。バブル崩壊の翌年ではありませんでしたが、日本経済には相当なパワーが残っていて、郵便貯金（現在のゆうちょ）の定期貯金に10年間預けると——年間で「8%」もの金利がつかしました。銀行の定期預金も同様です。いまとなつては信じられない好条件です。預けたお金は、複利（ふくり詳細は後述します）を含め、10年後に「2倍」になる計算でした。

預けてさえいれば、必ず増える。しかも銀行はまず潰れることがありませんでしたから、預けたお金はほぼ確実に守られる。こんな羨ましい状況が「常識」として存在しました。この恩恵を受けたのが、あなたのご両親あるいは、おじいちゃんおばあちゃんたち。その世代の人にとって、使えるお金・人生設計に予算として含んでいいお金は「給料」だけではありませんでした。「給料+金利収入」だったのです。この経験があるからこそ、日本に

はいまだに「稼いだお金はコツコツ貯金」という固定概念が生き続けています。

ここまで読んで、「そんな時代があつたんだー」とため息をつく人もいるかもしれませんが。ただ、嘆いたところで仕方ないこと。時代は変わりました。かつての状況が戻ってくることはかなり難しそうです。

では、「給料＋金利収入」という楽な運用方法に頼れない「これからの世代」はどうしたらいいのでしょうか。結婚をし、家族を持つ人もいるでしょう。子どもが産まれ、成長すれば、高校や大学の進学などで多額のお金が必要になるかもしれません。一生独身を貫くとしても、老後の年金で十分な額をもらうことは難しそうです。どこかの段階で、あなた自身、あるいはご家族の介護が必要になる可能性もあります。お金に関する不安は尽きません。

ある試算（平成22年・生命保険文化センター調べ）によれば「ゆとりある老後」を送るには、夫婦で月35万円が必要だそうです。65歳で定年したとして、人生はまだ20年、30年続きま

す。現在の水準が続くと仮定して、支給される年金はサラリーマンと専業主婦の夫婦で月額約22万円（自営業夫婦なら月額13万円）です。定年後20年生きるとすれば、世帯で4800万円以上の蓄えがないと厳しい計算になります。ゼロ金利のいま、これだけの貯金ができる人がどれだけいるのでしょうか。

人生で必要なお金を給料だけで稼ぐのは、あまりに困難だという現実がここに 있습니다。そんな状況だからこそ、あなたに、「投資」をおすすめしたいと思っています。

タイトルに「せめて25歳で」とありますが、この本を読み始めた今がスタートだと思っ
て、投資について知っていただければ幸いです。

本論に入る前に一つ、投資に関する有名なエピソードをご紹介します。

「ガソリンスタンドの店員がコツコツ株式投資で9・7億円の遺産を残す」（2015年3月20日付 Market Hack より）

バーモント州で暮らしていた92歳のおじいさん、ロナルド・リードさんという方がいました。生前、この方はガソリンスタンド店員やパートの清掃員などをして生計を立てて

いました。決して高給取りではなかったようですが、この方は質素儉約しっそけんやくに努め、コート
ボタンがとれたら安全ピンでとめ、車を駐車する際は有料パーキングには決して停めな
かったといえます。目的地まで少々距離があっても、タダで停められる場所を選んで歩いて
向かったそうです。街では、「ドケチ」で有名な方でしたが、彼には何ものにも代えがたい
趣味がありました。そう、「投資」です。ロナルドさんが保有していたのは、実に95社にも
及ぶアメリカを代表する企業の株式。いったん買ったなら、すぐに売ったりせず、数十年単
位で自宅に保管していました。証券会社に預けると管理手数料をとられますから、こんな
ところにまで質素儉約を貫いていたわけです。コツコツと投資を続け、残した資産が9・
7億円。生涯賃金の何倍もの額を、次代に引き継いだのです。

ロナルドさんから見ならうべきは、少額でもいいからコツコツ投資を続けることの大切
さです。世界経済は成長を続けています。1970年から2015年までの世界先進23か
国の平均株価は、幾度とない金融危機を経験しながらも、実に16倍になっています。この
ことからはっきりと言えるのは、長期で眺ながめると「世界経済は成長している」という事実
です。

この流れに乗る手段こそ、投資です。世界経済の成長に自分の大事なお金を託し、世界の将来に希望を夢見ることを投資と言い換えても、大げさではありません。免許も要りません。学歴も不要ですから、有名企業の社員である必要もありません。必要なのは、正しい知識。そして長く続けられる習慣です。

わたしは、現在、お金の教養が身につく総合マネースクール「ファイナンシャルアカデミー」で金融投資について教えています。外資系銀行のプライベートバンク部門で富裕層の資産運用サポートを約13年間していることもあり、どのようにしたらお金が増えるかについて、皆さんにわかりやすく投資の経験や知識をお伝えすることができまし、知っている以上、その義務があると感じています。

なぜならこれからの時代、投資や金融の知識があるのとないのでは、人生の難易度が全く違ってくると考えているからです。

本書では、お金の教養を身につけるのにつけてのマンガ『インベスターZ』のエピソードを引用しながら、投資の基本と本質、何よりそのおもしろさについて解説していきます。『インベスターZ』は、とある進学校にある秘密のクラブ「投資部」を舞台にした投

資マンガです。内容がおもしろいのはもちろん、投資を生業なりわいにしているわたしから見ても参考になる本質を突いたエピソードばかりで、最初に読んだときは大変驚きました。

1章では投資にまわりつく「怖い」というイメージからの脱却を目指し、2章では「実は簡単」といっていい投資の仕組みについて解説します。3章では、投資をはじめめるうえでは是非知っておいて欲しいプロの考え方をご紹介し、続く4章で投資的思考の意外な効果についてご説明します。最終章となる5章では、投資をはじめめることで起きる人生の変化と、とっておきの投資メソッドについてお話しします。

もちろん、マンガを読んだことのない方でも問題なく理解できるように書いてありますのでご心配なく。

本書には、あなたの知らなかった投資の本当の姿が書かれていると思います。どうか怖がらずにページをめくってみてください。

ファイナンシャルアカデミー

渋谷しゅがや豊ゆたか

札幌にある中高一貫の超進学校・道塾^{どうじゅく}学園。全国屈指の成績を誇るこの学校は、授業料をはじめとした一切のお金を、生徒およびその家族から徴収しないという、特殊な学校運営を行っている。そんな超難関校の入学試験で全教科満点を取り、トップの成績で入試をパスした財前孝史^{さいぜんたかし}は、頭の良さと人一倍負けず嫌いな気質こそ目立ってはいるが、家では趣味のゲームに打ち込む普通の中学1年生——になるはずだった。

始業初日の放課後、野球部の見学に行こうとした孝史をとある先輩が呼び止める。「野球部に案内する」という彼の言葉を信じて付いていく孝史だが、行き先はグラウンドではなく、図書館の最深部にある隠し部屋だった。そこにあったのは、たくさんの大型ディスプレイとファイリングされた壁一面の資料、大きくて頑丈そうな金庫の扉——。その異様な雰囲気を持つ場所には、中2〜高3までの各学年の主席たちが集ま

っていた。

孝史は、高校3年生の部長神代圭介かみしろけいすけに、自分たちが秘密裏ひみつりに活動している投資部投資部であること。道塾学園の運営費はすべてこの投資部が、資産運用によって稼ぎ出していること。そして、毎年入試にトップの成績で合格した新入生をスカウトし、入部させることが伝統になっていることを聞かされる。

想定外の展開に混乱する孝史だったが、不安よりも興味が勝ち、渋々ながら入部することに——ここに、「投資家財前インベスターZ」が誕生した!!

『インベスターZ』1巻まるごと試し読み公開中!

<https://magnet.vc/v/1093vww>

『インベスターZ』の最新情報がわかる三田紀房公式サイトはこちら!

<http://mitanorifusa.com/contents/?s=インベスター>



目次

はじめに 3

『インベスターズ』あらすじ 10

第1章 投資が「怖い」のはなぜ？ 17

1 時間目 何も知らずにはじめていいのか株式投資 18

2 時間目 株式投資とは経営に参画すること 26

3 時間目 年「3%増」では満足できない？ 32

4 時間目 リスクをとらないこともまた、リスクである 38

第2章

投資はこんなに「単純」だ

45

5 時間目 自分の感覚を信じ、好きな株を買う 46

6 時間目 感情のない、ロボットになれ！ 54

7 時間目 「何もしない」のも、投資 62

8 時間目 歴史は、何度でもくりかえす 68

第3章

一般投資家が知るべき「プロ」の考え方

75

9 時間目 世界の「これから」を想像する 76

10 時間目 誰も見ていないものを見る 84

11 時間目 JRのリニア開通で、京急の株が上がる？ 92

12 時間目 バブルとは、「チューリップで家が買える」こと 98

13 時間目 情報は現場に落ちている 106

第4章

お金だけじゃない！投資があなたにもたらしもの

113

14 時間目 就職希望企業の株を買うか？ 114

15 時間目 不動産購入にロジックを！ 120

16 時間目 宇宙人から見れば、地球は「買い」 128

17 時間目 ルールは成功者への軌跡^{レール} 134

18 時間目 高級腕時計とIPO株の共通点 140

19 時間目 ピンチは「買い」？ 146

第5章 投資で「自由」を勝ち取ろう！ 153

22	21	20
時間目	時間目	時間目
大きく資産を築くには 166	「アービトラージ」を制するものが投資を制する 160	家族でお金の話をしてみよう 154

第1章

投資が「怖い」のはなぜ？

何も知らずに はじめていいのか 株式投資

わけもわからず投資部の部屋へと連れられてきた孝史は、先輩たちが興じていたマージャンに興味を持ちます。

ルールも口々に知らないまま孝史はあえなく惨敗。そんな孝史に、投資部キャプテン圭介は「カモ」になることのリスクを説きます。



つまり……
この中でカモは
君ってことだよ

財前孝史君

「株式」って、なに？

投資には様々な種類がありますが、まずは最もオーソドックスな株式投資から話をすめたいと思います。そもそも「株式」とはなんでしょうか。

Aという株式会社を例に説明しましょう。

Aは「上場企業」と呼ばれる会社で、株式を（証券会社などを通じて）誰でも買える状態にしています。企業Aは、なぜ株式を売るのでしょうか。

彼らは、自分の会社の「権利」を売って、自分たちの事業に使うための資金を調達しようとしています。形のない「権利」というものを売り買いするために、株式という名称を与え、株券を発行しているのです。

資金調達の具体的な例には、たとえばこういうものがあります。

企業Aは、宇宙旅行ができるロケットを開発することを決定しました。

しかし、これには多額のお金がかかります。特定的能力・技術を持った人を雇う必要がありますし、特殊な設備の導入が必須です。場合によっては、日本ではなく海外に拠点を移す必要があるかもしれません。

もちろん、お金は銀行から借りることもできますが、銀行から借りたお金は利子を乗せた上で必ず返さなければいけません。ロケット開発は失敗する可能性もありますし、計画通りロケットが完成したとしても事業化までには何十年とかかるかもしれません。開発費全額を会社の資金だけでやろうとすると少しこころもとない。

こういった状況で登場するのが、株式を売ることです。まとめますと――。

「新しい何かを始めたい！ ……でも、いまはまとまったお金がない。だから、うちの会社の権利を売ることになりました。いいアイデアは持っています。いい技術も、人も揃っています。そんなわが社の将来に賭けて、株（会社の権利）を買ってくれませんか。お返しは、ロケットのビジネスで儲けが出たら必ずします」

こうして資金を集めることで、企業は思い切ったチャレンジができ、更なる成長を遂げることができるようになります。

素人とプロが同じ環境で戦うのが株式市場

様々な上場企業が名を連ねる株式市場は、とても巨大な代物です。

製品やサービスなどの売買で成立する「世界貿易取引高」（いわゆる実物経済）が年間16兆ドル（1920兆円）であるのに対し、株式は年間50兆ドル（6000兆円）にまで及びます。これに各国通貨が取引されることで成り立つ「為替市場」^{かわせ}を合わせると、1050兆ドルにまで及びます。モノを売ったり買ったりする市場の何十倍もの大きさで、「権利とお金」が売り買いされているのです。投資の世界が巨大であることが分かっていただけだと思います。

個人投資家や、証券会社で働くプロ、ヘッジファンドといわれるプロ中のプロが混在するこの市場、日本市場全体に占める個人投資家の割合は、17%という数字があります。

「えっ、意外に少ないなあ」

という印象を持つ人もいるでしょう。しかし、少ないながらも毎年利益をあげている個人投資家は大勢います。

若いうちからはじめた方が経験も積めますので、投資を行うことは是非おすすめしたいのですが、注意点もあります。

残念なことではありますが、この世界には投資の経験が浅い方を「カモ」にしようとす
る人間がいるのも事実です。

「タダほど高いものはない」

という言葉もありますが、たとえば証券・金融機関には「無料相談窓口」というものがあります。もちろんすべてがそうではありませんが、「教えてください」と若い人が駆けこんだ際、これ幸いと、質の悪い金融商品を薦めるケースがあります。

いまでも現役の世界的投資家で、ウォーレン・バフェットという人がいます。彼は多くの名言、まさに「金言」を残していますが、その中のひとつに、こんなものがあります。

「リスクとは自分が何をやっているか、よくわからないときに起こるものです」

リスク——。投資を行うにあたって常に気をつけなければならぬ、大事な大事な言葉です。

「B社の経営は安定的だが、社長が高齢というリスクがある」

「市場は政策発表前日、リスクを避け売り一色だった」

「先進国は、中東情勢特有のリスクに警戒感を持っている」

様々な場面で使われますが、日本語に直すなら「不安定要素」とでもいうべきでしょうか。いい方向に転がるのか、悪い方向に転がるのかはわからないが、どちらかといえば悪

い方向に転がる可能性の方が高そうだというのが「リスク」の指す状態かもしれません。

ウォーレン・バフェットは、

「自分が何をやっているかわからないときに、リスクは発生する」

といいました。野球でもサッカーでも、ゲームに参加するとき、ルールや技術を知らないと戦略をたてられませんし、勝つこともできません。打ったあとサード方向に走ってしまったり、自陣のゴールにボールを蹴り込んでしまうかもしれません。

これと同じで、投資にもルールと技術が必要です。何も知らないと、あなたの投資はリスクだらけになってしまいます。

リスクを排除するための最も基本的な考え方は、

「よくわからないものには投資しない」

ということですが。企業の株を買うなら、投資先の企業がどんなビジネスをやっているか、いま現在の経営状況はどうか——これを知らずに買うようなことはしないようにしましょう。

「あー、やっぱり投資って難しいなあ」

と感じた方は、こう発想を切り替えてみましょう。

いま、わたしたちが生きているのはどんな時代でしょうか。手元にはスマートフォンがあり、瞬時にウェブへとアクセスできます。気になる企業があればそのホームページにすぐアクセスすることができ、株価を調べることがもできます。優秀なアナリストがどんな市場予測をしているか知るのも容易です。どれも、知りたいと思った数分後には、情報が手に入っているでしょう。こんなことができるようになったのは、ここ最近のこと。かつてはどの情報も、それなりの手間をかけないと手に入れることができませんでした。情報はクローズされ、金融の中心である兜かぶと町ちやうには怪しげな人間が出入りし、不当な株価操作が頻繁に行われていました。そうしたとき、いつだって損をするのは、個人投資家でした。

いまという時代は、取引が透明化され、個人投資家にとって必要な情報の公開が急速に進んだ、ある意味すばらしい時代ともいえます。

情報を正しく使い、お金の教養を高めれば、誰でも資産形成できる恵まれた時代に生きているとわたしは考えています。

2

時間目

株式投資とは 経営に参画 すること

投資部に入部した孝史は、初めての株式投資を行います。

その会社の名前はゲーキチ（作品内の架空企業）。

株式投資のど素人である孝史は、ゲーキチのユーザーを尊重したゲーム運営に注目。自分がプレイしていて快適な会社⇨伸びる会社とし、株を購入しますが……。



絶対に上がる!

ボクが
そう思うから

日本人は応援が大好き！

株を買うときの目安になる「企業の情報」。誰もがインターネットにアクセスできるようになった現在、情報を入手するハードルは極めて低くなった——と先ほど述べました。

では、株を選ぶときに役立つ情報とはどんなものでしょう？

日本だけに限っても、上場企業は膨大にあり、すべての情報を集めようとしても限界があります。そして、投資のプロであっても、企業の将来性を予見するのは難しいといわれています。どれだけ情報を集めても、経済や社会には一定の不確定要因がありますし、企業も人間の集合体です。どこかでミスをおかすこともあります。

何を目安に企業を選べばいいのか。きっかけとしてわたしが提案したのは「応援したかどうか」という物差しです。人に勧められたからでも、儲かりそうだからでもなく、応援したい企業の株を買う。株式投資の最初の一步を踏み出す際に、ぜひ取り入れて欲しい考え方です。

エンターテインメントやスポーツをイメージするとわかりやすいと思います。アイドルやJリーグ、あるいは夏の高校野球全国大会、オリンピック。なんでも同じですが、特定

の人、チームを「応援」するからこそ、コンテンツに深く入っていけない、仕組みや分野に詳しくなった——こんな体験をしたことがある方は多いのではないのでしょうか。

しかも、日本人は「応援大国」とも呼べるぐらい、応援が大好きな国民性を持っています。音楽アーティストのファンクラブが、これほど大規模かつ緻密ちみつに整備されている国は日本だけです。もちろん日本人全員が応援好きというわけではないでしょうが、これだけ熱量を持って自分以外の人のことを考え、お金と時間を使うことのできる人間には投資の素養そようがあります。

応援したい企業を探すのは、難しいことはありません。

いま、あなたはどんな場所での本を読んでいますか？ 自宅でしょうか、電車の中でしょうか。書店でしょうか。パッと本から顔を上げ、周りを360度見回してみてください。あなたの周りには、なんらかの製品やサービスが必ずあるはずですよ。お気に入りの製品やサービスを見つけたら、それを開発・提供している企業のファンクラブに入るつもりで、株式投資をしてみればいいのです。企業の成長の一翼いちよくを担うことができるのも株式投資の醍醐味だいごみです。

ところで株を買って投資することは、応援である一方、企業の経営に参加することでもあります。

先ほど、企業が株式を発行することは、新たなビジネスを始めるための資金調達であると書きました。お金を出す代わりにあなたが入れるもの、それが経営権です。繰り返しになります、株式会社は、会社の権利をたくさんの方の株式という形に分割して売ります。たとえ1株でも株式を購入すれば、その瞬間から、あなたは会社のオーナーの1人になります。

この考え方を突き詰めていくと、トヨタやグーグルのような世界的な大企業の経営権も「買える」ことになります。このような大企業で働いていなくても、応援したいという意思があるだけで、誰もが経営に参加できる。それが投資という世界です。

お金のために仕事をしないために

たとえば、あなたが働いている会社はどんな業績でしょうか？ あるいは業種を取り巻く環境はどうでしょうか？ 今の日本経済をみると、必ずしも右肩上がりの企業や業界ばかりではないと思います。バブル以降、正規雇用の平均年収は上がってはいませんが、

非正規雇用者の水準は低いままです。年功序列モデルは崩壊しており、長く働けばその分給料が上がるという保証はすでにありません。

それでも、そんなことは全部折り込み済みで、今いる業界・企業での仕事を愛してやまない方はたくさんいます。言うまでもなく、仕事へのモチベーションは給料が高いか安いかだけでは測れません。斜陽産業だとしても、「やっぱりこの仕事が好きだ」と頑張っている人は大勢います。一般的に賃金が低いとされる業界でも、「この仕事を続けたい。自分がやらなきゃ」という一心で頑張っている方もいます。

たまたま自分のしたい仕事のお給料が低かった。そんなとき、収入を補填する手段として、別の会社のオーナーの1人になるというのは、少し愉快で、資本主義の自由さと株式投資の面白さをあらわしていると思います。

自分は自分の好きな仕事で頑張る。応援する企業は企業で頑張る。そして、彼らが成長すれば、自分にも恩恵が回ってくる。投資とは、こういう見方もできるのです。

3

時 間 目 録

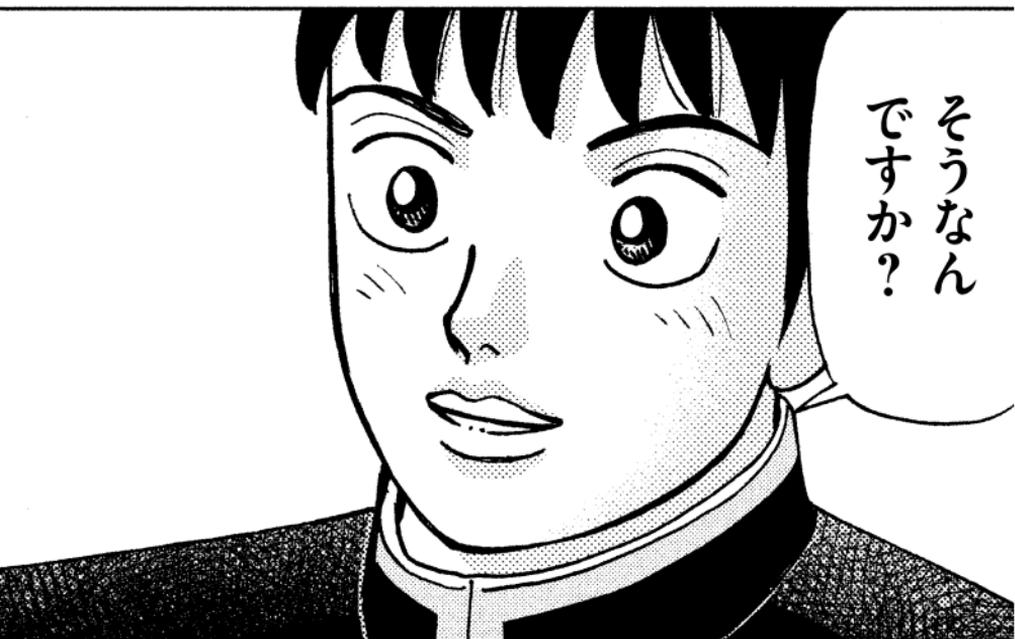
年「3%増」では 満足できまない？

投資部の先輩たちが築きあげてきた資産は3000億円。これを年8%の利回りで運用し、毎年240億円の利益をあげて、「学費無料」を維持するのが、投資部の目標です。最初に孝史に与えられた資金は100億円。この元本がねほんの10%となる10億円からの投資が基本だと言われますが、ちまちまやるのはめんどくさいと感じた孝史はそれを無視し、いきなり30億円を1社につき込みます。



1社に30億も
注ぎ込む
バカがいるかよ！

なにかじや
ないだろ！



そうなん
ですか？

年3%増でも、20年後に資産は1.8倍になる

さきほど、銀行の定期預金金利が、年8%だった時代があったとお話しました。10万円を預けたら、10年で倍の20万円になる金利です。

投資の世界で「年間の投資実績がプラス8%」という数字がどのぐらいの価値を持つかというところ、「あり得ないぐらい、優秀」となります。証券会社のプロですら、株式で年間8%の利益をあげることがそう簡単ではありません。

個人投資家の方が目指す現実的な目標としては、年3%程度が現実的ではないでしょうか。

「えー、1年間に3%しか増えない？ スケールが小さくありませんか？」
がっかりする方もいるかもしれませんが、もしかすると、あなたは少し勘違いをされているかもしれません。金融の世界には「単利」と「複利」という考え方があって、

ひとつ、クイズを出してもいいでしょうか。

10万円を年3%の金利で、20年間預け続けたとします。10万円は幾らになりますか？
10万円の3%は3000円。だから、毎年3000円ずつ増えて、これを20回足すから

20年後は16万円でしょうか。

こう考えた方は残念ながら不正解です。これは「単利」の考え方。資産運用では「複利」で計算をします。

10万円の元手を複利で計算すると、どうなるか。

まず1年後は10万3000円で、ここまでの数字に違いはありません。変化が出てくるのは2年後からです。3%増えた元本そのものに、3%の金利がかかることとなります。10万3000円×103%で、2年後の資産は10万6090円になります。

これを20年続けると、18万611円。単利で足すのと違って2万611円多くなっています。さらに長く続けると、この差はより鮮明になります。

複利効果で年3%という数字は、決して侮あなどつてはいけない数字なのです。「はじめに」でお話ししたロナルド・リードさんが、少額のコツコツ投資で大きな財産を築くことができたのも、ここに秘密があります。

フランスの経済学者であるトマ・ピケティが書き、世界的ベストセラーになった『21世紀の資本』という本があります。文中でピケティは、いま世界で広がっている極端な経済

的格差は大きな問題であり、なんとかして食い止めなければならぬと訴える一方、投資が持っている強力なパワーを、長期的な統計データをもとに明らかにしています。彼の主張は端的に言うなら、

「賃金が増えるスピードよりも、金融資産（株式など）が増えるスピードの方が速かった」というもの。長期に及ぶ投資のリターンがいかに強大なものかを表した分析結果だといえるでしょう。

このようなことから、投資は2年、3年で結果を求めるのではなく、長期的なスパンで考えてこそ本当の価値が見えてくるものだと言えます。

しかし、投資をはじめるとある誘惑に襲われます。

「株で一発大儲け！」

あたかも株で一発逆転ができてしまうかのような言い方ですが、この手の広告や誘い文句は、市場に溢れています。結果的にいつも損をするのは経験の浅い個人投資家です。できただけ無視するのが身のためでしょう。

株式投資で個人投資家が損をしてしまうのには理由があります。損をする個人投資家は

株式市場にある2つの資金の特徴を理解していません。2つの資金とは「実需資金」と「投機資金」です。短期的な株価の上げ下げは「投機資金」が引き起こしています。あたかもカジノゲームに興じるように短期的な売買を繰り返す「投機資金」の世界は生き馬の目を抜くような弱肉強食の世界です。ババ抜きの子を誰かにつかませるまで、株価の上げ下げゲームが行われます。このような状況で生き残るのは至難の業で、10人に9人は、市場を退場させられるといえます。お金をドブに捨ててもかまわないなら止めませんが、もっと安全にお金を増やす方法はいくらかでもあります。

そして、さきほどお話しした「投資は応援」というスタンスとは、まるで違ったものです。

腰を据えて、「これだ」と納得できる株式と付き合い続ける。

これこそ、株式投資の極意です。

4

時間目

リスクをとらない
こともまた、
リスクである

就活生の浩子は、大手メーカーの内定を目前としながら、DMM株式会社に興味を持ちます。アポなしで会社訪問をした浩子を迎えてくれたのは、なんと会社のトップである亀山会長。亀山氏は浩子に、リスクをとらないことのリスクを説きます。

特に将来自分たちを
おびや
脅かすであろう事業には
積極的に投資している

すべての事業には
寿命があるから
未来のためのリスクを
取り続ける

日本に生まれたら人生安泰!?

「投資」への漠然とした不安を取り除くべく進めてきた本章も最後になりました。

投資の基礎の基礎として、こんな考え方も覚えておいて欲しいと思います。それは、

「何もしないことがリスク」

ということですよ。

本書の「はじめに」で、銀行に預けていてもお金は増えないとお伝えしました。

これを聞いて「増えなくても減らないならいいや」と考えている方がいるかもしれませんが、このまま何もせず銀行に預け続けた場合、あなたの資産は減る可能性があります。

これには、いまあなたの生きている日本が10年後、20年後にどういう状況にあるかが関わってきます。ここではあえて悲観的なことをいいますが、みなさんは「沈んでいる国にいる」という自覚を持っていらっしゃるでしょうか。

経済における「リスク」には様々な種類があります。リーマンショックなど金融市場の影響を受ける「マーケットリスク」、病気やリストラなどで自分が働けなくなる「自己リス

ク」——いまからお話しするのは、「カントリーリスク」と呼ばれるものです。これは日本に住んでいる限り、日本のパスポートを持っている限り避けては通れないリスクです。絶対起きて欲しくはありませんが、まずは戦争がそうでしょう。日本ではかなり可能性が低いとは思いますが、クーデターなどの政変によって国自体が変わってしまうこともあります。

いまの日本の場合もつと現実的なのは、日本政府が日本国民に成り代わってしている100兆円を超える借金の問題です。これがいまよりも膨らみ、「返せません」なんてことになってしまったら大変です。債務不履行さいむふりこうという状況になり、未曾有の大恐慌みそいうのだいきょうが起こります。

また、悲しい現実ですが、1997年以降、世界の先進7か国「G7」で唯一賃金が下がりが続けたのは日本だけです。日本と同じ借金大国のイタリアですら、賃金は上がっている。

そんななか、日本の中央銀行（日本銀行）はお金を大量に発行して、一生懸命自国の通貨

を弱くしよう弱くしようと頑張っています。むろん、この背景には幾つかの狙いがあります。

メディアでよくいわれる「円安になると、海外にものが安く売れる。輸出関連が潤う」うるおだけではありません。まずは物価を上げたいという意図がありますし、株価を上げたい考えもあるでしょう。あまりいわれないことですが、日本はアメリカ国債を大量に保有しています。円が安くなると海外にある資産価値は増大しますから、資産価値を値上げしたい狙いもあります。

しかし、これをやり過ぎるとどうなるか。

度を超えて通貨が安くなってしまった場合、海外から見ても「単なる安い国」になつてしまふ危険性があります。自国通貨が安くなり過ぎると、輸入でなりたっている資源や生活必需品の値段は跳ね上がります。さらに、企業もふくめたいろんなものが外国企業に買収されてしまいます。外資系企業の存在自体はもちろん悪いことではありませんが、度を超

えて買われてしまうようになっては問題です。なぜなら、日本であげた収益が海外に大量流出してしまうからです。

そんなカントリーリスクに日々さらされているみなさんのほとんどは、お給料を日本円でもらっていると思います。

先述のような状況の中で、たとえば**10年後**、いまもらっている**20万円**と、そのときの**20万円が同じ価値である**と言い切れるでしょうか？ いまお話したように、円は安くなるかもしれませんが、100%の保証はありません。もしかしたら、いまもらっている20万円は10万円になっているかもしれないのです。

こういう状況で、稼いだお金をすべて円で持っていてもいいのでしょうか。
わたしは、一部を株式や外貨にしておくことをおすすめします。

日本にはリスクがある。じゃあ、海外に住もう。海外企業で働こう。こう考えたところ

で、実行に移すのは困難です。しかし、投資は自分の身体を動かさずに、海外に「行く」ことだってできます。外国株を買うのはもちろん、株式以外にも手段を広げれば、円ではなく、米ドルで貯金をすることもできます。日本にいながらにして、海外にも軸足を置くことができるのです。

実際に、日本の一部の大手商社の海外駐在員は、給料を円でもらうのか、海外通貨でもらうのか、あるいは、そのミックスなのか、選ぶことができます。現地生活を送るうえで、利便性はもちろんですが、そうやって自然に相場観を養っているのでしょうか。見習う価値のある慣習だと思います。

世界情勢や経済は、常に時々刻々と変わっていきます。そこで生きるわたしたちも、変化し続けなければいけません。

第**2**章

投資はこんなに「単純」だ

5

時間目

自分の 感覚を信じ、 好きな株を買う

知識不足を不安に思いつつも、キャプテンの圭介に半ば強制され
一切の勉強をすることなく投資をはじめた孝史。

初取引の翌日、最初に30億円を投資した企業の株価が10・1%も上昇します。
圭介はあらためて、投資をはじめるとに勉強な知識は必要ないと説きます。



ホラ見ろ……

投資の勉強なんか
しなくても
うまいこといったら

「ポケモンGO」のヒットで儲かったのはどこ？」

2時間目で「投資は応援」というお話をし、「身近な会社への投資から始めてみよう」とお伝えしました。

一見初心者向けに思えるこの方法ですが、名だたる大物投資家も実践している、有効な戦術です。さきほど出てきたウォーレン・バフェットもその1人。彼はコカ・コーラの大株主であり、いまだに1日4本のコカ・コーラを飲むコカ・コーラ愛飲家でもあります。

バフェットが率先して行っている通り、投資の世界にはこんな言葉が定着しています。

「投資を始めるにあたっては、まずは身近な銘柄めいがらから始めよ」

「遠くのもの（自分と縁が薄いもの）を避けよ」

「乗りやすい馬（勝手がわかるもの）を選べ」

投資の上級者は、投資を判断する時に、企業の財務分析や株価の中身を吟味する専門知識を駆使しますが、はじめたばかりの方はそうはいきません。

慣れない専門知識に振り回されるよりは、自分にとってなじみのあるフィールドに寄せて考える方が有利です。

なんとなくの知識をつけるぐらいならむしろ、消費者としての感度の高さを養い、流行の一步先を考えるクセをつけることをおすすめします。

世界的大ヒットを飛ばした位置情報ゲームアプリ、「ポケモンGO」を例に考えてみましょう。このゲームがヒットしたことで利益を得たのは、開発メーカーのナイアンティック・ポケモン・任天堂であることは間違いありません。

ただ、経済効果はそれだけにとどまりませんでした。長時間外でプレイするための、スマートフォンやバッテリーが売れました。長時間を歩き続けるための、スニーカーやコンフォートシューズが売れました。これらの現象は、ユーザーにとって「何をいまさら」か

もしませんが、プロの投資家であっても、このような状況を知らない人は数多くいます。実際に流行にのっている人、あるいはのっている人の周囲にいる人にしか得られない情報が、たくさんあります。

他にも例を挙げてみましょう。

都市部の商業施設で、勢いのあるメガネショップといえばJINSです。ここ数年で爆発的に店舗数を拡大しました。

JINSのメガネはなぜ売れるのでしょうか。ヒット商品を分析すると、その理由がよくわかります。特殊なレンズで長時間パソコンを眺める人の疲れを軽減する「PCメガネ」、独自の形状で花粉の入り込みを防ぐ「花粉対策メガネ」。

これらの商品は、普段メガネをしない人たちに向けてつくられています。視力が弱い人はいつの時代も一定数いますが、そこはすでに各社が激しい競争を繰り広げる場所。安さとデザインのよさで勝負することもできるかもしれませんが、ライバル達も強力なため、

大きくシェアを伸ばすことは容易ではありません。そこへ切りこむのではなく、メガネ市場の外側に出て新規ユーザーを開拓していったのがJINSのやり方。今までメガネを使っていなかった人に視力補強以外の付加価値を提供し、新しい市場をつくりだした結果の大成功でした。

続いてもう1社。ご存じの方も多いと思いますが、イギリスにダイソンという家電メーカーがあります。斬新な掃除機で世界的ヒットを飛ばしたあと、この企業はユニークな空調家電を発売しました。丸型で、中心にドーナツのような穴が空いた、羽根のない扇風機せんぷうきです。それまで扇風機といえば、どのメーカーも同じ形状をしていて、価格も似たり寄ったりでしたが、彼らはガラリと形を変えることで、高くても売れる扇風機を発明しました。以降、「ニューウェーブ扇風機」とでも呼ぶべき新しい市場が生まれました。

モノであふれた現代。ゼロから、まったくの新しい商品をつくりだすことは難しくなってきましたが、これらの事例をみると、発想を転換して新しい市場を生むことは決して不可能ではないことがわかります。

彼らのように、市場の外側に挑戦しようとする企業を注視すると急成長する企業に出会

うことがあります。

また、こうして、いち消費者の視点から「企業のビジネスモデルを分析し、理解すること」で、投資先の实力を知る、戦い方を知ることにもつながります。

投資家なら当然と言いたいところですが、投資のプロでも、この基本を忘れてしまうことがあります。

それは、「バブル」と呼ばれる熱狂状態で起きてしまいます。

たとえば、2001年に弾けた、日本の「ITバブル」は象徴的です。ITベンチャーが次々と設立された1990年代の終わりから、インターネット関連企業の株価は急上昇しました。まだこのころは「IT」なる新たな業態が、具体的にどんなビジネスを指しているのか。また、インターネットによって社会がどう変わっていくのかを理解している人は決して多くはありませんでした。

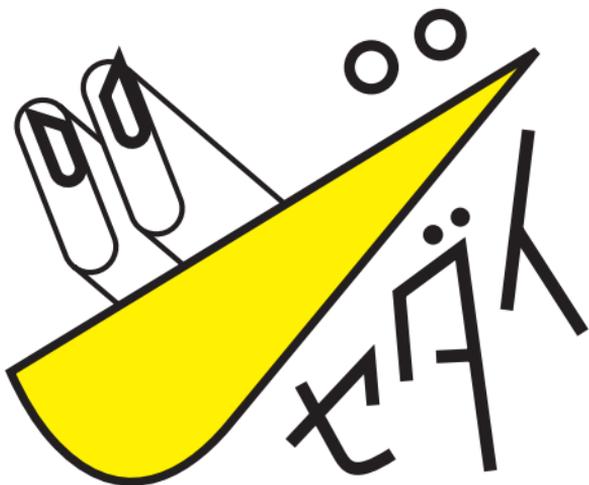
そのため、先進的な技術を抱えているわけでもないIT企業の株価までもが上がる事態

となり、膨らみすぎたバブルは弾けました。分析を怠り、おこた実力以上の評価をつけてしまった投資家たちは手痛いしっぺ返しを受けました。

ITの本場アメリカも、ほぼ同時期、狂乱の状態にありました。AOLというIT企業は、自社の純利益に対して700倍にまで株価がふくらみました。それだけ周囲の期待が高かったから、とも言えますが、実力の700倍は過大評価と言わざるを得ません。多くの投資家が、AOLがどんなビジネスで利益を出しているのかを理解もせずに、「AOLがすごいらしい」という根拠のない期待から株を買い続けた結果、アメリカのITバブルは崩壊。損失を被った投資家は少なくありませんでした。

何度も痛い目を見ながらも、株式市場でバブルは起き続けてきました。また、これからも起きるでしょう。周りが熱狂しているときこそ、立ち止まって冷静に分析すること。これは、投資家にとって非常に重要な姿勢です。

君は、



何と闘うか？

<http://ji-sedai.jp/>

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、**行動機会提案サイト**です。読む→考える→行動する。このサイクルを、困難な時代にあっても前向きに自分の人生を切り開いていこうとする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ

ジセダイイベント

著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月開催中！ 行動機会提案サイトの真骨頂です！

ジセダイ総研

若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

星海社新書試し読み

既刊・新刊を含む、すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

行動せよ!!!